

題 カジメのホワイトベース

主任研究員 蓑宮 敦

相模湾ではカジメ藻場の消失による「磯焼け」が進行しているため、当场ではカジメ藻場を再生するための試験・研究を行っていることを前号「磯焼け対策の切り札となるか？早熟カジメ」でお話ししました。今回は、そのカジメ増殖試験で使用する新兵器をご紹介します。

通常のカジメは成熟までに1年半かかりますが、半年程度で成熟して遊走子（種のようなもの）を放出する「早熟カジメ」をたくさん作って磯焼けした漁場に移植すれば、アイゴ等からの食害を受ける前に次世代を残すことができるので、藻場の再生に有効と考えられます。

ところが、早熟カジメの苗を作る試験中にもアイゴやブダイの食害を受けてしまいます（図1）。一株ずつ網を被せれば防げるのですが、大量に守ることはできません。そこで、研究員と船員が力を合わせてカジメ用の網生け簀を製作しました（図2）。なお、この生け簀は、漁業者が使っているものよりも色白なので、ホワイトベースと名付けました（筆者はファーストガンダム世代）。今後はこの生け簀をベース基地として、早熟カジメの苗（量産型）をたくさん作っていく予定です（図3）。《筆者心の声：早熟カジメが量産の暁は、磯焼けなぞあつという間に叩いてみせるわ。ードズル・ザビ名言の引用ー》

前号でご紹介したように、漁業関係者の藻場再生への取り組みや要望も増えてきました。今、まさに、藻場再生にかける情熱は、「♪燃え上れ、燃え上れ、燃え上れ〜」って感じです。

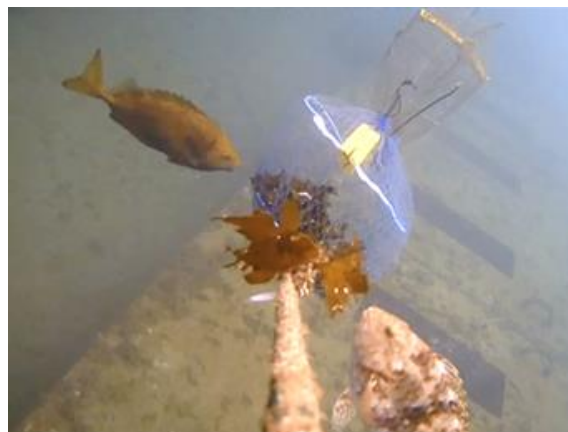


図1 アイゴ等による食害



図2 生け簀の製作

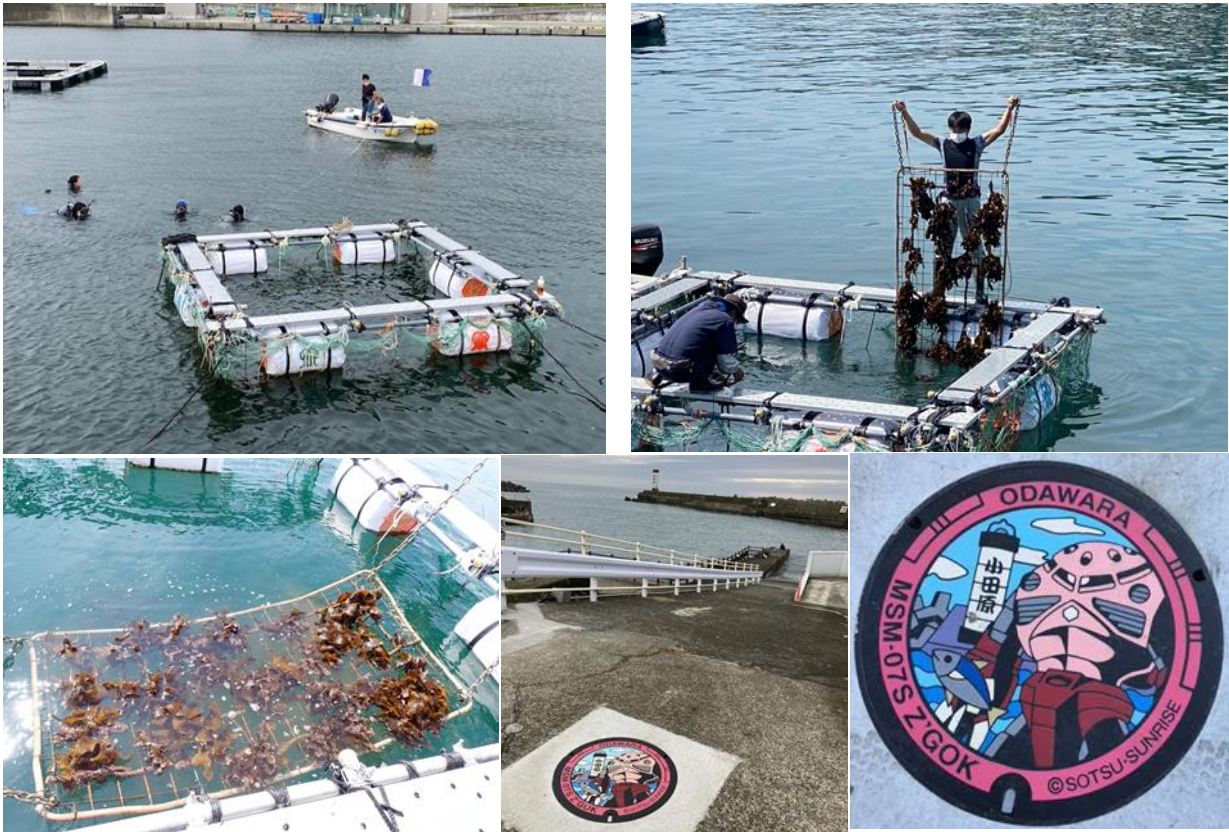


図3 カジメ生け簀（通称：ホワイトベース）とガンダムマンホール（小田原漁港内）